

山下ふ頭再開発 市民検討会 《第5回 実施概要》

1 開催日時・場所

令和7年12月20日（土）9時～12時 横浜市役所

2 参加者

31人（男性16人、女性15人） 欠席5人（男性2人、女性3人）

3 検討内容

振り返り、まとめ等

4 基本的な方向性の説明・グループワーク

事務局及び総括担当のファシリテーター(※)から当日のグループワークの流れの説明終了後、各グループに配置されたファシリテーターの進行のもと、これまでの4回の議論を振り返り、山下ふ頭のまちづくりで“大切に/重視/実現したい”ことは？というテーマについて意見を発表し合い、それぞれの意見を模造紙に貼り出しました。

その後、グループごとに模造紙を使用のうえ発表し、事務局から閉会の挨拶を行い、第5回プログラムを終了しました。

※ファシリテーターとは、参加者の意見を引き出し、対話を促しながら、議論を円滑に進める進行役です

5 当日の様子

グループワーク



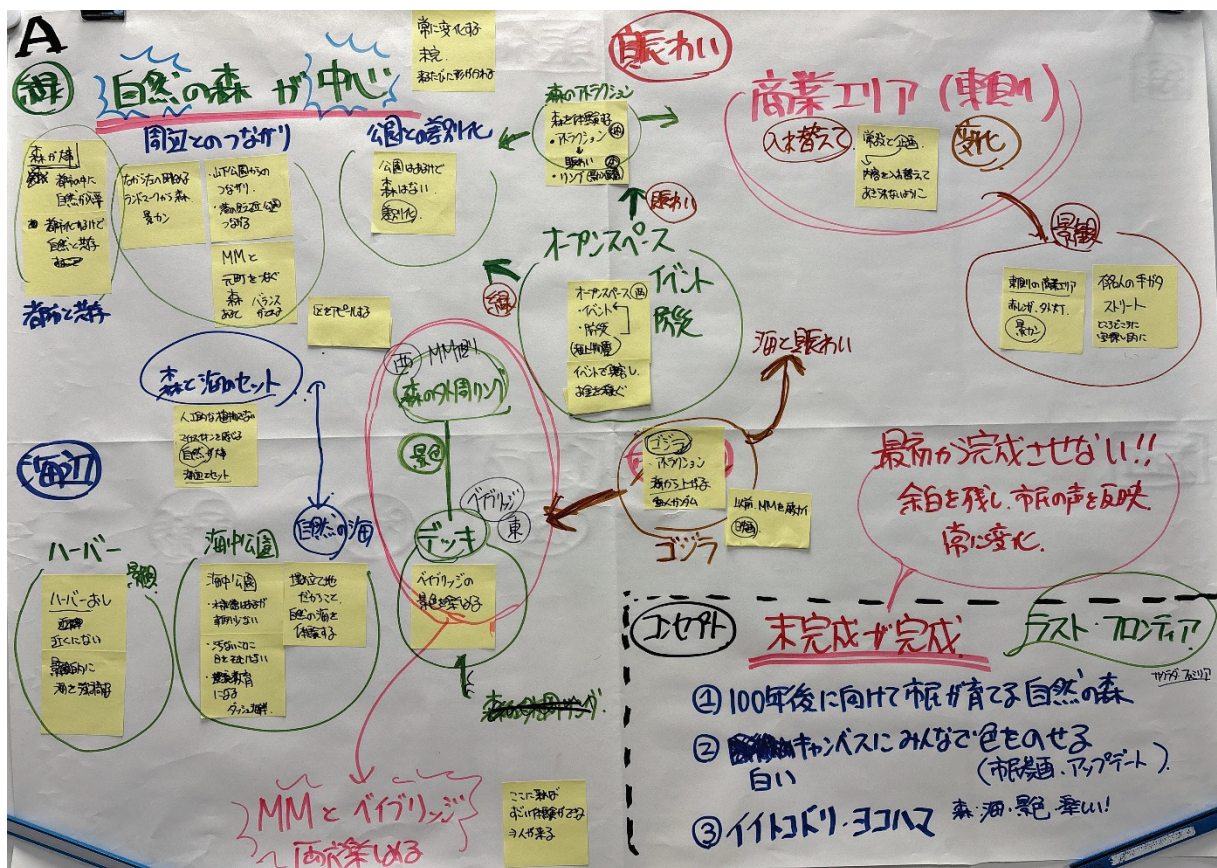
グループ発表



6 発表概要

A グループ

- ・「未完成が完成」をコンセプトに、最初から完成させずに余白を残し、市民の声を反映して常に変化させ、森・海・景観を楽しめる横浜らしい空間づくりを進める。
- ・市民が育てていく自然の大きなこんもりとした森を配置する。森には集客のための体験型アトラクションや外周リングを作り、バイブリッジやみなとみらいの景観を楽しめるようにしたい。
- ・海辺には自然を感じられるハーバーや海中公園を設置し、商業エリアではガス灯や横浜ゆかりの文化を取り入れたい。
- ・「イトコドリ・ヨコハマ」というキーワードで、森・海・景色、色々なものを楽しめる場所を作れたらいいと思う。



B グループ

- 横浜は日本初が多く、貿易の拠点であり、横浜が国際化する拠点であったことをハイカラと捉え、山下ふ頭を「ハイカラ特区」として再生し、歴史・文化・国際性を活かした魅力ある拠点をを目指す。
- 横浜はこれまで変化を受け止めた場所であり、単なる施設を集積するのではなく、多様な方が集まり、芸術が表現できる場があると良い。
- 企業が投資したいと思わせるような仕掛けも必要であり、立地を生かした潮風を感じる景観とイベントでにぎわいを創出する。
- 市民が憩い、健康増進を図れるよう、屋内外が一体となった空間がほしい。
- 民間の知恵を取り入れながら、未来に向けた文化発信の場とし、市民の誇りとなるアイデンティティとなることを期待する。

B 歴史・文化を象徴するハイカラ特区

① 現状の重要ポイント

歴史・文化的価値のあるものが潜在している

潜在的価値

文化

建築・食文化・歴史・関連

横浜の文化
「横浜」の由来
「横浜」の歴史
「横浜」の文化
「横浜」の歴史
「横浜」の文化

歴史

横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

シンボル

日本が国際化
して近代化の
象徴として
横浜が
発展した

基盤

横浜の基盤
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

アクセス

横浜のアクセス
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

② 課題・競合

シンボル性・発信力の不足

シンボルとしての建築・制度が不足

横浜のシンボル
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

発信のためのブランディング不足

横浜の発信
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

競合

横浜の競合
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

③ 山下ふ頭の強み・解決策

住宅地と離れた広い土地

住宅地と離れた広い土地

横浜の住宅地
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

強い個性を打ち出す

横浜の個性
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

広い土地だから全体計画できる

横浜の全体計画
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化
横浜の歴史
横浜の文化

D グループ
・これまでの議論を通じて、「誰もが気軽に訪れ、繋がりを感じられる空間」が重要と考えた。山下ふ頭の3本の指をイメージし、3つのテーマを掲げた。 ①移動手段の楽しさと利便性を両立し、車・電車・水上交通を観光資源化。 ②市民から観光客まで、ふらっと来て参加できる多様な体験を提供。 ③まち全体に統一感あるデザインを施し、歩くだけで楽しめる魅力を創出。

